

バンカートスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。バンカートスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。バンカートスクールは日曜を除くほぼ毎日、休み無く開講しています。

この10年もの間で講座248、述べ786人の講師の方々をお招きしました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ3900人をこえます。ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

バンカートスクール校長 村田 真

## BankART妻有 2015夏合宿

BankART妻有で、作家とともに寝食をともにしながら、夏合宿を行います。2日間は講師のもと作品制作、1日半は芸術祭見学の3泊4日のゼミ。BankARTスクールの拡大バージョンゼミです。

参加定員:6名

**木村崇人** 8月7日[金]~10日[月]

**村田 真** 8月15日[土]~18日[火]



きむらたかひと | 1971年愛知生まれ。東京芸術大学大学院博士課程修了。「地球と遊ぶ」をコンセプトに「地球の持つ見えない力を知覚する装置」を制作し、作品を体験することで、ものごとを情報としてではなく実感できる体験型の作品を主に制作している。個展にすみだリバーサイドホール(東京/2008) 宮崎県立美術館(宮崎/2013) 他。グループ展にあいちトリエンナーレ(愛知/2010)、越後妻有アートトリエンナーレ(新潟/2012)、瀬戸内国際芸術祭(香川/2012)、いちばらアート×ミックス(千葉/2014) 他多数。

むらたまこと | 中面参照

料金:45,000円

横浜~妻有の送迎費~芸術祭見学ツアー(芸術祭チケット含む)、宿泊費、3泊4日の全食事(飲み代含む)、ゼミ参加費

## シンポジウム

### 日韓交流の新しい可能性 part2 ~朝鮮通信使を起点に~

2015年8月29日 [土] 18時~20時 会場:十日町情報館

料金:1,000円 (大地の芸術祭パスポートをお持ちのかたは500円)

江戸幕府が「よしみ(信)をかわず(通)」の意で、二百数十年招聘し続けた朝鮮半島からの500人規模の文化使節団『朝鮮通信使』。この歴史的な遺産を起点に現在各地で開催されている日韓交流の新しい可能性を探るプログラム。

#### [パネラー]

チャ・ジェグン(釜山文化財団文芸振興室長)、仲尾 宏(京都造形芸術大学客員教授)

三宅理一(藤女子大学副学長)、北川フラム(大地の芸術祭総合ディレクター)、


池田 修(BankART1929代表) 他

ご予約・お問合せ:BankART1929 info@bankart1929.com TEL 045-663-2812

# BankARTschool





月 mon. 19:30-21:30
<b>クリエイションクラス</b> <b>中村恩恵</b> ドラマツルギー：廣田あつ子
① 4/20 ② 4/27 ③ 5/4 ④ 5/11 ⑤ 5/18 ⑥ 5/25 ⑦ 6/1 ⑧ 6/8

舞踊の創作を実践しつつ表現について学ぶ講座です。ドラマツルギーに廣田あつ子さんを迎えて、中村恩恵作品"Waltz" (Noism委嘱作品／舞踊批評家協会新人賞受賞作品)の振付手法に基づいたエチュードの創作を行います。受講者が独自の表現手法を見いだすきっかけとなることを目指します。創作活動に興味のある方や、身体表現の枠を広げたい方の為の講座です。
なかむらめぐみ   ローザンヌコンクールにて受賞後、渡欧。イリ・キリアン率いるNDTで活躍の後、振付活動を開始。2007年横浜に拠点を移す。新国立劇場やNoism、K-Balletなどの委嘱作品も多く手がける。芸術選奨文部科学大臣賞、横浜文化賞等の受賞歴を持つ。
ひろたあつこ   ダンサー、振付家、教師。2年間のNY留学のち、2004年から自身のプロデュース作品「雲の通り路」「霧ノ衣」「ひかりの素足」を発表。第1回鎌倉芸術祭、新潟妻有トリエンナーレ、Marseille Dance Festival等に出演。中村恩恵とは2002年以来、dramaturgeの立場で創作に携わり、二人での共作出演を重ねている。

#### BankARTスクールの概要

週1回、2ヶ月間で全8回。

定員は20名程度。

時間＝19:30～21:30

会場＝BankART Studio NYKにて

#### スクール受講生の特典

受講生には学生証を発行します。また、BankARTショップでの買い物か5%割引、BankARTバブおよびカフェの1,000円チケットが10%割引となります。

#### お申し込み方法

①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メール・FAX・電話のいずれかにてお知らせください。その際に受講料の振込先をお知らせいたします。

1講座15,000円(税込)。はじめての方は入学金3,000円(税込)も一緒にお支払いいただきます。入金が確認でき次第、手続き完了となります。

一旦納入された受講料は返金できませんのでご了承ください。

また、講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。申し込み受付は定員になり次第、終了させていただきます。

#### お申し込み・お問い合わせ

BankARTスクール事務局


school@bankart1929.com


TEL 045-663-2812


FAX 045-663-2813


BankART Studio NYK


〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9


月 mon. 19:30-21:30
<b>展覧会のみかた</b> <b>村田 真</b>
① 6/22 ② 6/29 ③ 7/6 ④ 7/13 ⑤ 7/20 ⑥ 7/27 ⑦ 8/3 ⑧ 8/10

以前BankARTスクールでやっていた美術館ツアーの座学版。その時々にかかれている展覧会をネタに、展示の見どころだけでなく、それぞれのテーマを掘り下げ、美術館のエピソードや裏事情まで取り上げること
で、鑑賞の一助にしたいと思います。
【取り上げる予定の展覧会】
① 鎌倉からはじまった1951-2016 (4/11-2016年1/31 神奈川県立近代美術館鎌倉)
② シンプルなかたち展：美はどこからくるのか (4/25-7/5 森美術館)
③ レオナルド・ダ・ヴィンチと「アンギアーリの戦い」展 (5/26-8/9 東京富士美術館)
④ ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム (6/24-8/31 国立新美術館)
⑤ 蔡國強展：帰去来 (7/11-10/18 横浜美術館)
⑥ 伝説の洋画家たち 二科100年展 (7/18-9/6 東京都美術館)
⑦ 画家たちと戦争 (7/18-9/23 名古屋市美術館)
⑧ 越後妻有アートトリエンナーレ 大地の芸術祭 (7/26-9/13 新潟県十日市など)
むらたまこと   1954年東京生まれ。東京造形大学卒業。びあ編集部を経てフリーランスの美術ジャーナリスト。2005年より絵画制作を再開。東京造形大学および慶応義塾大学非常勤講師、BankARTスクール校長。2010年には10年間のレビュー集『アートのみかた』、2011年には作品集『村田真《絵画芸術》』を刊行 (いずれもBankART出版)。


水 wed. 19:30-21:30
<b>朝鮮通信使 part2</b> <b>仲尾 宏</b>
① 4/20 ② 4/27 ③ 5/11 ④ 5/18 ⑤ 5/25 ⑥ 6/1 ⑦ 6/8 ⑧ 6/15

2010年に開催したゼミのpart2。前回と同様、朝鮮通信使研究の第一人者である仲尾宏を迎え、通信使の真意に迫る。ゲスト講師として <b>三宅理一</b> (藤女子大学副学長)、 <b>上田雄三</b> (ギャラリーQ)をお招きする。
【主なテーマ】
日朝・日韓交流のあしあと
秀吉の壬辰倭乱(文禄-慶長の役)と国交回復
朝鮮通信使の文化遺産
雨森芳州の多文化共生論—未来への指標
通信使外交はなぜ途絶したのか
なかおひろし   1936年京都府生まれ。1960年同志社大学法学部政治学科卒業。現在、京都造形芸術大学客員教授。前近代日朝関係史専攻。主な著書に、『朝鮮通信使の軌跡』『朝鮮通信使と江戸時代の三部』『朝鮮通信使と徳川幕府』『朝鮮通信使と壬辰倭乱』(以上、明石書店)、『京都の渡来文化』(淡交社)、『朝鮮通信使江戸日本への善隣使節』(日本放送出版協会)など他多数。

火 tue. 19:30-21:30
<b>横浜を友だちにすすめよう</b> <b>佐藤澄子</b>
① 6/16 ② 6/23 ③ 6/30 ④ 7/7 ⑤ 7/14 ⑥ 7/21 ⑦ 7/28 ⑧ 8/4

東京オリンピックに遠くから来る友人に「となりのヨコハマにも絶対来てね」と言いたい。「で、どこがおもしろいの?」と聞かれたら、なんて答えよう。横浜にはたくさんステキなものがある気がするけれど、それはなんだか茫洋としています。マーケティングやブランディングと呼ばれるものに使われる言葉を注意深く避けながら、自分の友人を説得するという具体的な課題を解きすすめ、ものの魅力の伝え方の核心に迫ってみようという試みです。宿題あり。発表あり。
さとうすみこ   クリエイティブディレクター／コピーライター。企業や商品のコミュニケーションをデザインすること、またそのコミュニケーションを制作することを仕事にしています。これまでにナイキ、公文教育研究会、ユニコロ、森ビル、資生堂などを担当。馬車道の宇徳ビルヨコカイにてアーティストの白井美穂とスタジオを構えて活動中。

水 wed. 19:30-21:30
<b>創造列島 Creative Archipelago</b> <b>加藤種男</b>
① 4/22 ② 4/29 ③ 5/6 ④ 5/13 ⑤ 5/20 ⑥ 5/27 ⑦ 6/3 ⑧ 6/10

近代から現代にかけて、日本の文化を形成した主体は、いうまでもなく多彩なアーティストやクリエイターであった。もちろん彼らだけで文化が形成されたわけではなく、市民を中として、国や地方自治体もこれを支援した。けれども、こうした動きの中で見過ごされがちなのは、企業の果たした役割である。本講座では、日本文化の振興に果たした企業およびその関係者の役割とその変遷を、講筵が横浜であることにちなみ、三溪園における原富太郎の夢を皮切りに確認していきたい。併せて、東日本大震災と東京オリンピックという二つの背景のもとに、文化振興の手法を大きく転換する必要に迫られている今日と未来に向けて、企業はいかなる文化ビジョンと戦略を持っているのかを示したい。
かとうたねお   公益社団法人企業メセナ協議会専務理事。1990年から2013年まで、アサヒビールの特典活動を推進し、「アサヒ・アートフェスティバル(AAF)」をたちあげ、市民主導のアートプロジェクトのネットワークを実現。あわせて、2002年から2010年まで、「芸術文化創造都市横浜」の旗振り役を務め、公益ネットワーク形成に取り組む。現在、アートNPOリンク理事、さいたまトリエンナーレ総合アドバイザー、文化審議会政策部会委員など。2008年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。


水 wed. 19:30-21:30
<b>最終映画美学講義</b> <b>四方田犬彦</b>
① 5/13 ② 5/20 ③ 5/27 ④ 6/24 ⑤ 7/1 ⑥ 7/8 ⑦ 7/15 ⑧ 7/22

日本最初のフィルムの一つ「紅葉狩」から、ブニュエルやゴダール、ブラッケージ、デュラスを経て、現在の映画の最前線であるタルペーラまで、映画がいかに映像と音を組織化(ならびにその解体)を遂行してきたかを思考する。また映画における恐怖の表象、多声論主義についても考察する。映画の目的とは表象することでも、虚構の物語を語ることもない。それは現実のなかに深く隠されている構造を発見することである。
【参考文献】
四方田犬彦『映画史への招待』岩波書店
『映画と表象不可能性』産業図書
『ゴダール、神話、歴史』(編著)産業図書
アンドレ・バザン『映画とは何か』岩波文庫
よもたいぬひこ   エッセイスト、批評家、映画史家。東京大学にて宗教学を、大学院にて比較文学を学ぶ。映像と言語、都市と記号、文化の階層性とイデオロギーについて、批評的な執筆活動を行なう。著書は『ハイスクール1968』『ルイス・ブニュエル』『書物の灰燼に抗して』など多数。詩集に『人生の乞食』『わが煉獄』が、翻訳に『パゾリーニ詩集』がある。

木 thu. 19:30-21:30
<b>現代芸術のパラダイム変換</b> <b>木幡和枝</b>
① 4/23 ② 4/30 ③ 5/7 ④ 5/14 ⑤ 5/21 ⑥ 5/28 ⑦ 6/4 ⑧ 6/11

美術、造形、写真、映像、建築、空間、都市、文学、革命、宗教、……、自覚的に、また無意識に、近代を土台にして継続されている現代芸術。アーティストの態度と創造物を批判的かつ創造的に検証する。美が芸術の観念から切り離されたその日に近代芸術は生まれた、とA・マルローは言った。出発点はゴヤだと示唆する。科学、技術、暴力、機械、身体性とからみあいながら、現代芸術は目まぐるしくパラダイム変換を経てきた。概念と表現の両方からこの関係性をひもといていきたい。芸術は単なる鏡像なのか、創造性／想像力という澁刺としたイノチを育むことができるのか?
This seminar will be given in both Japanese and English. NOT verbatim translation, but the speaker will talk in both languages, mixed, where appropriate. The audience will be facilitated by the bilingual and/or either mono-lingual approach.
こばたかずえ   1946年東京生まれ。アート・プロデューサー、翻訳家、同時通訳者。TBSブリタニカ、工作舎にて編集に従事。70年代後半よりアムステルダムでの「アッペル財団インターン」を経て、NYのP.S.1の客員キュレーターを務め、82年には「plan B」を東京に設立。一貫して「オルタナティブな表現空間」を実践的に追求する。88年より農業から建築まで生活と表現の再生を探る「白州・夏・フェスティバル」の事務局長。2000から2014東京藝大先端芸術表現科教授。主な訳書にスーザン・ソントグ『この時代に想う』『良心の領界』『同じ時の中で』、ローリー・アンダーソン『時間の記録』、トニー・ゴッドフリー『コンセプト・アル・アート』、ライアル・ワトソン『生命潮流』『風の博物館』他。東京藝術大学名誉教授。

木 thu. 19:30-21:30
<b>写真ワークショップ</b> <b>楢橋朝子</b>
① 6/18 ② 6/25 ③ 7/2 ④ 7/9 ⑤ 7/16 ⑥ 7/23 ⑦ 7/30 ⑧ 8/6

最近、多くの実践的なワークショップ、レビューが開かれているが、海外の影響なのか、ポートフォリオを作成することやプレゼンテーションに傾きすぎているように思われる。逆にそのあたりに収まらないような人たちを募り、少人数の寺子屋的なワークショップを目指す。基本は作品を持ってきてもらうこと。講評を重ね、個々人にあったやり方を話し合い模索する。ゲストの回は対談を基本とし、「写真をやっていく」ことを多様な角度から照らす。ゲストは以下を予定している。
② 6/25 澤田陽子 (オシリス代表) ④ 7/9 倉石信乃 (明治大学教授) ⑥ 7/23 笠原美智子 (東京都写真美術館学芸員) ⑧ 8/6 石内 都 (写真家)
ならばしあさこ   1959年東京生まれ。80年代に森山大道の写真ワークショップ「フォトセッション」で写真活動を始める。自主ギャラリーに長年関わる。国内ではツァイトフォトサロン、中京大学C・スクエア、東京アートミュージアムなどで個展、東京都写真美術館、東京国立近代美術館、川崎市市民ミュージアムなどで企画グループ展。写真集に「NUE」「フニクリフニクラ」「half awake and half asleep in the water」「Ever After」、同人誌「main」、写真小冊子「Biwako, 2014-15」などがある。作品は国内外でコレクションされている。

金 fri. 19:30-21:30
<b>横浜建築家列伝 vol.1</b> <b>五十嵐太郎+磯 達雄</b>
① 4/24 ② 5/1 ③ 5/8 ④ 5/15 ⑤ 5/22 ⑥ 5/29 ⑦ 6/5 ⑧ 6/12

西洋の入口として誕生した横浜は、明治、大正、昭和(戦前)にかけて、海外や国を代表する建築家により、街の景観が形成されてきました。また戦後も、「アーバンデザイン」という言葉が、横浜にはかけせないキーワードとして、街づくりを牽引してきました。そして現在は、新しい世代の建築家がここ横浜に居を構え、活発な活動を行っています。この講座は、こうした先進的な都市空間であり続ける横浜が、どんな建築家によって築かれてきたのか、その歴史と将来を考えるインタビュー・シリーズです。近現代の横浜のすぐれた建築資産を挙げながら、活躍中の建築家をお招きし、お話を伺います。
<b>山本理顕、飯田善彦、曾我部昌史</b> (みかんぐみ)、 <b>西田司</b> (オンデザイン)、 <b>室伏次郎</b> (スタジオアルテック)、 <b>高橋晶子</b> (ワークステーション)、他 以上第一期。
いがらしたろう   建築史、建築批評家。1967年パリ生まれ。東北大学教授。主な著書に『被災地を歩きながら考えたこと』(みすず書房)『現代建築に関する16章』(講談社)などがある。
いそたつお   建築ジャーナリスト。1963年埼玉県生まれ。1988～99年『日経アーキテクチュア』編集部。2000年～ブリックスタジオ共同主宰。共著書に『昭和モダン建築巡礼』(日経BP社)、『日本遺産巡礼』(同)などがある。

金 fri. 19:30-21:30
<b>都市とアートの水先案内人</b> <b>聞き手   池田修、村田真、溝端俊夫、細淵太麻紀</b>
① 6/19 ② 6/26 ③ 7/3 ④ 7/10 ⑤ 7/17 ⑥ 7/31 ⑦ 8/7 ⑧ 9/18

「くじけぬ人間はいない、不安のない友達はいない、砕けぬ夢、破れぬ夢などない(略) 僕らはメイフラワー号に乗り、月へとぶ船に乗り(略) 自由の女神が沖にでるのを」
とアメリカのポールサイモンはうたった。さて私たちはどこに行くのか? 誰も気づかない場所に点を打ち続ける、都市(地球)とアート(魂)の水先案内人に御登壇願う。
【講師】(第三期まで予定)
① 6/19 南條史生 (森美術館)
② 6/26 岡崎乾二郎 (灰塚アースプロジェクト)
③ 7/3 モエレ沼公園 (札幌市/武市 毅)
④ 7/10 丸岡ひろみ (TPAM in Yokohama)
⑤ 7/17 九森ひらこ (東京アートポイント計画)
⑥ 7/31 朝倉健吾 (ヒルサイドテラス)
⑦ 8/7 歴史をいかした街づくり (横浜市) 秋元康幸(横浜市)、網河 功(横浜市)、卯月盛夫(早稲田大学教授)、関 和明(関東学院大学教授)
⑧ 9/18 北川フラム (瀬戸内国際芸術祭+大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ)